

## イネモンガレ病の防除試験(3)

沢 崎 彬

(富山県農業試験場)

さきにモンゼットのタルク増量がモンガレ病防除に有望であることを報告したが、また室内試験の段階で、セレサンとの混用も好結果を得た。32年度はセレサン+モンゼットの圃場試験を行つた。また、本病に対するモンゼットの効果の発見以来、有機砒素化合物の研究が進み、Urbacid, Asozin, PA 等各種薬剤が試作されたのでそれらのうち PA 剤について Urbacid を有効成分とするモンゼットと比較しつつ防除効果を検定し、さらにモンゼット散布適期に関する試験も行つた。

**モンゼットとセレサンとの混用** 第1表のように発病抑制効果では、モンゼットは単用、混用ともに無散布と高い有意差を示したが、なかでも、セレサンとの混用が効果的であつた。セレサン単用は本病の防除という面では余り効果がなかつたが、収量ではプラスの効果が認められた。これは圃場において本病以外の病害に対する影響と考えられる。

第1表 モンゼット、セレサンの混用と防除効果  
(3区平均)

供 試 薬 剤	発病莖率	被 害 度	収 量 比 (玄米重)
1. M粉剤(3%)	17.1	3.3	112.6
2. C(Hg 0.17%)+M(3%)	16.7	3.1	116.0
3. C(Hg 0.25%)+M(3%)	8.8	2.1	110.3
4. M水和剤 2000倍	23.9	5.2	113.0
5. C石灰(Hg 0.17%)	46.9	10.9	112.0
6. " (Hg 0.25%)	44.2	7.7	110.3
7. 無 散 布	59.3	14.9	100.0

備考 M:モンゼット C:セレサン 散布7月6日、7月19日計2回  
調査 9月5日(収穫期)

**有機砒素剤の効果比較** この試験で供試したPA剤一1号は初め効果がややあるかにみえたが、その後病勢の伸展が著しく、非常な蔓延をみた。最終の調査結果は第2表に示めされる通りで、有機砒素剤についてはPAはIn vitroでUrbacidより薬効が高く、In vivoでは大差なく、In situでは逆になるといわれている(橋

岡, 1957)。我々の行つた圃場試験では、対照のモンゼット1000倍液の効果は非常に高かつたが、PAの効果は窮極において認めることが出来なかつた。この原因については尚検討を要するが、供試濃度750倍液でモンゼット1000倍液とほぼ同程度の褐点型葉斑を生じたので、それ以上の濃度の増加は危険と思われ、本病防除に対するPAの実用性は期待できないようである。

第2表 有機砒素剤の効果  
(3区平均)

供 試 薬 剤	発病莖率	被 害 度	収 量 比
1. PA剤一1号 750倍	82.6	19.6	103.1
2. " 1000倍	92.6	20.0	101.7
3. " 1500倍	82.8	20.9	100.4
4. モンゼット 1000倍	10.7	2.3	116.8
5. 無 散 布	81.0	18.8	100.0

備考 調査 9月11日(収穫期)

**モンゼットの濃度と散布時間** モンゼット水和剤は2000倍稀釈ではやや効果が劣るようであり、1000倍と2000倍との間に適当な濃度が存すると考えられる。

第3表 防除時期と被害との関係

散布時期	発 病 莖 率					被 害 度	収 量 比 (玄米重)
	7.10	7.18	7.27	8.2	9.13		
1. 7月10日	0.9	5.6	7.6	13.4	66.9	17.8	103.6
2. 7月18日	2.0	1.1	1.0	4.5	36.9	10.2	103.8
3. 7月27日	2.4	5.8	1.2	7.5	38.8	10.2	104.4
4. 8月2日	1.1	2.6	2.5	1.2	7.1	1.8	106.5
5. 無 散 布	2.5	3.1	3.6	17.6	54.1	14.1	100.0

備考 8月2日散布が特に発病少きは圃場誤差である。

散布時期試験では2000倍液1回散布によつて行つた為か、散布の時期別間に明らかな差を見出し得なかつた。(第3表)。今後濃度を1000倍迄高めて更に検討を加えたい。